

福岡市学校保健協議会の講演会の報告

平成 28 年 1 月 4 日に福岡市医師会館で行われた福岡市学校保健協議会の講演会に参加された仲間からその報告が届きました。「こども CAP ふくおか」の会員の K さんです。私が学習会で 6 年ほど前に講演をさせていただいて以来、「こども cap ふくおか通信」(情報欄に掲載)を届けていただいています。お子様もすでに成人され社会人として働いてあります。講演会の内容も大変参考になることが多いので許可をいただいて掲載させていただきます。

研修報告

福岡市学校精神保健協議会講演会

日時：2016 年 11 月 4 日

会場：福岡市医師会館

講演 「発達障がい二次障がいを防ぐ ～非行臨床の経験から～」

講師 榎屋二郎先生 (東京医科大学茨城医療センター 精神科科長/准教授)

福岡市学校精神保健協議会では、児童生徒を取り巻く様々な問題や、学校現場および医療現場において特に関心の高いテーマを取り上げ、毎年度、講演会を開催している。今回、榎屋二郎先生の講演に参加した。

講演会案内書より

発達障がいの方やその御家族への支援においては、情報を正確に集め、本人と家族を支えながら、いかに周囲の理解を促進し環境を最適化して、本人と家族が真の意味での GoodLife を送ることが重要となる。

そのためにも学習の遅れや不合理な周囲の対応による二次障がいを防ぐ必要がある。非行臨床を通じて、感じ、考えてきたことをお伝えし、皆様の今後の支援へのヒントとなればと願っています。(榎屋談)

【発達障がいの一次障害・二次障害について】

一次被害・・・発達障がい者は、何らかの生来の脳機能障害のために(認知、知能、運動、言語、社会行動などにおいて)年齢に期待される発達課題が達成できないことがある。これは脳機能の制約が行動に現れているだけであり、本来は社会的評価とは無関係である。しかし、実際には社会的評価と結びつけられてしまう場合がある。

二次被害・・・一次被害のため、発達障がい者の自尊心が低下し、抑うつ・不安・ひきこもり・不登校・非行などの症状が出てくると、基盤として存在する発達障がいが見えづらくなる。その為、周囲から不適切な対応(いじめ、虐待、理不尽な叱責、不適切な興味関心を放置されるなど)をされるといふ悪循環へ陥ってしまうことがある。

【発達障がいと非行について】

発達障がい自体は非行の危険因子ではない。しか

- ・ 社会的孤立
 - ・ 周囲からの、いじめ、家族からの敵意の表出・虐待
 - ・ 感覚刺激への反応
 - ・ 犯罪に結びつきやすいこだわりの存在
 - ・ 周囲との情緒的つながりの欠如
- などへつながり、非行を誘発させてしまうことがある。

【二次障害を防止するために行われている問題解決方法の紹介】※

- ① 子どもの悩みを聞くこと。
- ② 子どもの利益となる目標設定をすること。
- ③ 問題の原因解明より、問題解決を優先すること。
- ④ 複数のアセスメントを実施すること。
- ⑤ 個別の指導計画を作成し共有すること。
- ⑥ 有効だと考えられる指導方法を積極的に導入すること。

し、適切な支援を受けられていないと非行が誘発される場合がある。

例えば、自閉症スペクトラム障害(ASD)の認知の特徴は、

- ・ 行動に伴う結果を考慮しない、予測できない
- ・ 他人の心情や反応を予測できない
- ・ ルールや規則への理解不足や誤解が大きい、、、など

上記のようなことがあるが、周囲からの理解が得られないと

- ⑦ 子どもが生活する場面で指導すること。
- ⑧ 問題行動に代わる行動を伸ばすこと。
- ⑨ 指導結果を客観的に記録すること。
- ⑩ 指導場面ごとに誰が指導するか決めておくこと。

※障がいのある子どもと関わる先生や親への支援を目的とした協働モデル(COMPAS)より(新潟大学 長澤研究室)

(報告:K)